

第7回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

令和5年2月15日（水） 午後2時00分～午後3時10分

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：生野正満委員，太田正委員，小島弘義委員，櫻井誠委員，齊木真理子委員，細川典男委員，三宅徹治委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，副参事，経営企画課長，経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，下水道管理課長，下水道建設課長，水質管理課長，技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

1 名

■ 会議経過

1 開 会

2 懇 話

- (1) 第2次宇都宮市上下水道基本計画改定計画（案）について
事務局より，資料1に基づき説明

A 委 員：パブリックコメントの3件という件数は少ないと感じたが，どのように抽出したのか。

事 務 局：ホームページでの周知のほか，地区市民センターや出張所の窓口などにも素案を設置し，広く意見の募集を行ったところであり，その結果，3名の方から意見を頂いたところである。

座 長：人数は少ないが質問は的確だと思う。その他，パブリックコメントの内容についてはいかがか。

B 委員： 「災害に強い上下水道の確立」という記載があるが、どのような取組を進めていくのか。

事務局： 素案34ページ、計画の柱2「災害に強い上下水道の確立」に基づき施策を進めるものである。指標として、管路の耐震適合率、雨水幹線整備率の目標値を定めている。

また、素案37ページにおいて、市街地の浸水被害軽減のため、総合治水・雨水対策推進計画に基づく浸水被害軽減の取組を進めていくところであり、個々の公共下水道雨水幹線等の整備を図るほか、河川道路事業との連携、また市民の皆様との協働により、雨水の流出抑制を推進していく。

D 委員： 雨水貯留施設について、アパートやマンションだと、設置するスペースがないため市街地では設置できないと聞いた。

事務局： 市街化区域内におけるアパートなどの集合住宅についても、補助対象であるため、具体的な事案があればご相談いただきたい。

座長： パブリックコメントの意見は吟味されている。特に、前期計画との違いについて記載してほしいというのはもっともである。また、計画通り進まなかったところについて、原因と今後どうするかを示すことは重要である。

(2) 令和5年度上下水道事業会計の予算編成について

事務局より、資料2に基づき説明

E 委員： 資料12ページ中段の下水道事業会計における内部留保資金残高については、0億円と記載されているが、内部留保資金残高が0円という状態は不安だと感じる。

事務局： 資本的収支差額の補填の結果、0円に近くなるということであり、補填財源は確保できている。下水道事業については、内部留保資金の残額が出にくい体質にあるが、令和6年度以降は一定額が出てくる見込み。

座長： 単年度だけではなく、資金残高として問題ないかというのは。

事務局： 資金残高については、現状経営において問題はないと考えている。収益的支出における減価償却費は実際の現金支出がなく内部に蓄積されており、これを補填財源として使用しているため、すぐさま経営に影響を与えるものではないと考えている。

座 長： キャッシュ自体の残高は単年ごとに変動しているが、総額が減少しているというわけではない。

D 委員： これから人口減少により水道料金収入は減っていくものと思うが、極端に人口が減るわけでなければ、前倒しで更新などを行ってはどうか。

事務局： 第2次上下水道基本計画の改定に合わせて、長期的な見通しを立てている。必要な事業が行えるよう長期的な目線で、前倒し、平準化の検討も含め運営をしていく。

C 委員： 社会的な価格高騰により、当初予算に影響が出ているところ、出ていないところはあるのか。

事務局： 燃料費や電気料金、資材単価などを中心に、支出は全体的に増加しており、水道料金・下水道料金については定額のため、収入は変動していない。そのため、収支的には厳しい状況である。ただし、料金の値上げなどについては、社会状況を見ながら慎重に検討していく内容であるので、令和5年度にただちに実施する予定はない。

座 長： 価格高騰の影響は織り込んでいるということによいか。

事務局： 現状分かる範囲で見込んでいる。

座 長： 価格高騰の影響を受けやすい分野としてはエネルギー、資材、人件費とあるが、どの分野が一番大きいのか。

事務局： 予算規模の大きい資本的支出では、資材にかかる費用が一番大きい。

補足になるが、建設コストの人件費と資材は大きく上昇している状況であり、今後も建設コストは上昇していくことが予測される。同じ工事をやろうとしても財源がより多くかかってくることから、今後検討していかねばならない。

座 長： 日銀が長期金利を上げており、ゼロ金利政策の見直しも考えられる。企業債についても、そういった点を考慮に入れなければならないため、財源調達についても考えなければならない時期である。

3 その他

E 委員： 概要版3ページに記載のある「水道水のおいしさのPRによる水需要の喚起」は大事なことであるとともに、ペットボトル使用削減による環境負荷低減の観点からも大切な視点と考える。

A 委員： 水道事業に関係のある新たな技術を活用した新聞記事を見かけたので参考までに共有する。

事務局： 汚水の中には有機物を微生物に食べさせてメタンガスを作る手法がある。今後も新技術の調査・研究を行っていく。

D 委員： 竹炭は汚泥の浄化に力を発揮する。現在は使用していないが、竹炭の使用も検討してほしい。

4 閉 会